

2023年8月10日

## 屋根葺材の道産松材採用理由について

旧島松駅通所は明治14年(1881)に行在所部分を増築し、昭和59年(1984)～平成2年(1990)の解体修理の際、板金から桎葺(サワラ)となりました。しかし、下記の理由により、創建時は道産松材(エゾマツ、トドマツ)であった可能性が高いと考えられます。

また、現状では道産材による桎材の供給も可能となりつつあることから、今後の修理工事では道産松材による葺き替えを実施したいと考えています。

道産松材採用理由

- (1) 同時代に建築された札幌農学校演武場(時計台)は、『重要文化財旧札幌農学校演武場(時計台)保存修理工事報告書』によると創建時の明治14年(1881)から明治42年(1909)から明治44年(1911)頃まではエゾマツの桎葺屋根であった。(別紙1 赤枠部分参照)
- (2) 1986年 北海道開拓記念館研究年報 第14号によると、北海道においては、エゾマツ、トドマツを原料とした「桎葺屋根」が広く行われ、住宅景観を特徴付けるものであったとされている。また、同年報では、この様な桎葺屋根も、建築工法全体の急激な変化の中で衰退し、昭和30年代に入ると、金属板の普及、防火上からの法的規制などにより、生業としての桎職は成立しなくなるとされており、昭和59年(1984)～平成2年(1990)の解体修理の際には、道産松材を用いた桎葺屋根は施工不可能であったため、サワラを用いたと推測される。(別紙2 赤枠部分参照)
- (3) 『史跡旧島松駅通所保存修理工事報告書』より、開拓使が明治7(1874)年6月に漁村(いざりむら)の山での伐木を許可した史料では、楸角(とどかく)も含まれているため、周辺の山林からトドマツが入手可能であったことが分かる。(別紙3 赤枠部分参照)

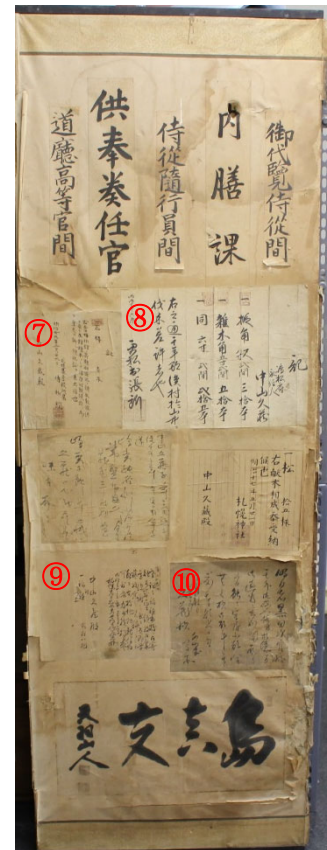
以上

## 【添付資料】

- 別紙1：『重要文化財旧札幌農学校演武場(時計台)保存修理工事報告書』札幌市 平成10年9月
- 別紙2：『桎、柿板の製作工程・技術と道具』小林孝二 北海道開拓記念館研究年報 第14号 1986年3月別刷
- 別紙3：『史跡旧島松駅通所保存修理工事報告書』広島町(現 北広島市) 平成3年3月

展示解説（中山家に保存されていた屏風）

- ⑦札幌農学校の博物館から、久蔵が石棒 1 本を寄贈したことに對しての感謝状です。
- ⑧明治 7 年 6 月に漁村（いざりむら）の山での伐木を開拓使が許可した文書です。
- ⑨久蔵が札幌農学校の博物館に稲穂 28 把を寄贈したことに對する校長佐藤昌介の名義の感謝状です。
- ⑩千歳の会所（場所請負商人の派出所）が久蔵に宛てた手紙で「明日は黒田次官様そのほか御役人様方が札幌からご通行になられるので、よくよく注意を払い、不都合のないよう取り計らって下さいますようお願いいたします」といった内容です。発行年が書かれていませんが、黒田の行動から推測すれば、明治 5 年と思われる。



⑧の拡大

